

多治見ながせ商店街

(多治見ながせ商店街振興組合)

岐阜県多治見市

！取組のポイント

青年部やまちづくり会社との連携により、新たな店舗の誘致や陶磁器の産地ならではのオリジナルイベントを継続的に実施することで、まちの魅力が増加。

取組の背景

陶磁器が並ぶ多治見ならではの商店街へ

毛糸店、子ども服店などにも美濃焼が並ぶ「商展街」



最近の空き店舗物件調査によると、今後10年程度で1/3の店舗が廃業・閉店する見込みであり、後継者不足、店舗物件の老朽化や比較的大きな物件の空き店舗化がまちの衰退に影響を与えている。

世襲による商業の継承は難しく、廃業後の物件に新たなまちの担い手となる創業者、第二創業者を誘致することが必要である。

また、多治見市は美濃焼の産地であるものの、多治見駅周辺には陶磁器店などが少ないため、陶磁器のまちの雰囲気になく、多治見ならではのまちの風景が少ないことも課題である。

当商店街では、この二つの課題解決に向け、商店街がまるでギャラリーようになる「商展街」を実施し、商店街での新たな出店や多治見らしい商店街づくりを目指すことになった。

取組の内容

「商展街」を実施し、陶磁器作品を展示販売

陶磁器のまち多治見を駅周辺で認知してもらうための取組として、観光客が増加する毎年10月に、組合員の参加店約20店舗内に地元の若手作家の陶磁器の作品を展示し販売する「商展街」というイベントを行っている。

この取組により、一定期間、商店街が陶磁器のギャラリーのようになり、店から店をジグザグに渡り歩くお客様の姿を見ることができる。

陶磁器の作品を受け入れる各店は、作家ならではの感性で店内のレイアウトやディスプレイを変える。これらにより日頃動きがない店舗でも店内に動きが生まれ、店の活性化につながっている。

作家とコラボしたDM作成も実施し、集客に努めている。このDMは店舗と作家がそれぞれの顧客に配布することから、店舗と作家がお客を共有することにもつながり、相互に新規のファンづくりにつながっている。

商店街青年部は、このような作家のまちづくりへの参画をきっかけに、アートイベントなどへの興味を抱き、様々なアーティストや大学生などを巻き込みイベントと一緒に作り上げる工夫をしている。また、そういった機会には交流会を積極的に行い、その後も商店街を訪れてもらえるような関係づくりに努めている。

取組の成果

5年継続し、恒例行事として定着

上記のような取組から、作家が多く立ち寄る商店街として若者から注目されるようになり、出店への関心も増している。その関心を、多治見まちづくり株式会社の出店サポートにより空き店舗への新規出店へとつなげることで、募集をしていた店舗への出店は概ね完了した。

まちづくり会社直営の空き店舗活用カフェイベント時に関係者の交流会なども開かれる



しかし、物件を貸す意思のない店舗の活用がまだされていないことから、現在は貸せる物件の掘り起こしを多治見まちづくり株式会社と連携して行っている。

「商展街」のイベントは5年間継続し、地元や作家のなかでは恒例行事として定着してきた。また、イベント期間を終えても作家とのつながりで店内に陶磁器を並べ続けている店舗も年々増加しており、陶磁器のまちの商店街ならではの魅力が増している。

実施体制

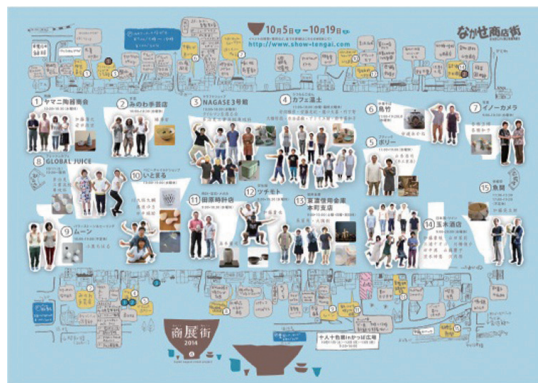
2015年度、商店街役員の世代交代が行われ、より若手がまちづくりに参画しやすい体制を敷いた。青年部は約15年にわたり月1回の情報交換会を継続しており、その青年部のメンバーが商店街を担う世代となった。

また、商店街事業の運営事務を多治見まちづくり株式会社へ部分的に委託することで、商店街の事務負担を軽減すると同時にまちづくり会社のノウハウを活用でき、持続的に事業が実施できる体制となっている。

そうしたプラットフォームがあることにより、作家や地元建築士などがまちの取組に気軽に参加できる仕組みとなっている。

イベントなどの告知においても行政や観光協会とも連携し効果的な情報発信を図っている。

作家と商店街がコラボ



基本データ

所在地	岐阜県多治見市本町
人口	約11万人(多治見市)
電話/FAX	0572-23-2636
関連URL	http://nagasest.web.fc2.com
会員数	56名
店舗数	62店舗(買回り品小売店9、飲食店9、サービス店20、その他24)
商店街の類型	地域型商店街
主な客層	主婦、高齢者、観光客(国内)

キーパーソンからのコメント

多治見ながせ商店街振興組合
理事長 玉木 秀典



貸せないを貸せる場へ

空き店舗対策を進める中で、貸せる場所をどうやって掘り出すかという問題がありました。多治見まちづくり株式会社と連携し、同社に商店街とオーナーの間のクッション材になってもらいながら、貸す意思のないオーナーへの働きかけを行いました。それにより、徐々にではありますが、貸せない店舗を貸せる店舗として活用できるようになってきています。

こうした連携体制が、商店街活動のプラットフォーム強化になり、よそ者・若者を取り込める素地を作ったと考えています。

若手陶芸家の見せる場

今後も、作陶を学んだ若手が地元に残り活動が続いていくために商店街という場を活用できないか考え、若手の作家の発表や交流の場にと始めた取組「商展街」を継続していきたいと思っています。

加えて、若手と既存店とのコラボ販売や売り方の工夫を進め、最終的には、若手陶芸家の「作る」を見せる拠点を商店街内に設置したいと考えています。

若手の作家とタッグを組み、アートの発想で商店街の活性化を進めていきたいと思っています。

商店街概要

多治見ながせ商店街は、古くから陶磁器の産地・流通拠点である多治見市の中心市街地に位置する。JR多治見駅から名古屋駅まで快速で30分という距離であり、名古屋市のベッドタウンとして都市が成長してきた。

当商店街はJR多治見駅から徒歩5分の場所に立地し、朝夕は通勤通学者も多く通行する。商店街は地元店が軒を連ねており、物販店が多い。

長年続けている週2回の朝市、夏祭り、クリスマスなどの取組のほか、たじみ陶器祭りにあわせて、若手の陶芸作家作品を中心としたクラフトフェアを開催している。